

10月19日(日)

刺身盛り、アラも
販売いたします

寿司盛り
(8貫内2貫くえ)

1,200 (税込) 円

島根県産
約40キロのくえ入荷

くえ祭り



朝起きは三文の徳。そのことわざ通りの展開に!?

木曜日ギリギリまで、広告作り何するか?悩んでいたその日の早朝3時。この日はなぜか目が覚め、早めに市場に向け出発。そこでいきなり目に飛び込んだ巨大な魚!! 鯛にしてはまだ早い。近くに行つてよくよく見ればくえの二文字が...これは買うしかない!! いや、待てよ。大丈夫か?? この巨大なくえを捌く事が出来るか? 自問自答しながら、買います! と威勢よく言ってしまった... こういう事があるから魚屋をやめられないんです。少年の心が蘇るんです(笑)。という訳で、今週はくえ入りの寿司や刺身、くえのあらを鍋物用に取り揃えた、くえ祭りを開催します!! 若手2人に約40kgのくえを持つてもらいましたが、迫力ありますね!! スタッフ皆んなの目がキラキラする姿を見れば、買って良かったと思います(笑)。

さあ今度はお客様に喜んでもらいましょ! 沢山のご来店、スタッフ一同お待ちしております。

西田鮮魚店 店長 祐宗 優司



西田鮮魚店

72-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)

『決め手は昭和の温もり』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史



I 六角精児『ふんわり』で、ふたたび芸備線にふれる
【あと、広島の方にね、芸備線っていう、今いろいろと、あの、存廃問題で、まあなんていうか、どうしたらいいのかといったっている、ローカル線があるんだけど、そこにコンサートに行ってきたんですよ。あれは東城駅という駅かな。帝釈峡という、すごい、いま行つて最高のな感じでいうか山道があるんですよ。で、そこに自然でできたカルスト台地だから水に削られて、なにかこう他の作用もあったのかな、すごいでつかい岩に穴が開いて自然の橋ができて、その下に川が流れているんだよ。雄橋っていうのかな。そこに行つて、ひじょうに、こう、リラックスしたというか、あの、マイナスイオンを浴びてきましたわ。】

10月9日、先週の放送に続いて、この週も六角精児が『ふんわり』の『今週のオレ』というコーナーで芸備線のことを話していた。司会の千葉美乃梨アナとのやりとり。
「今週、オレなにをしてたんだろ？」
「どこか行きましたか？」
「行つた。行つたのはね、えーと広島とそれから島根か」
「今まさに『ばけばけ』の舞台になっているところですか？」
「うん、『ばけばけ』で、すごい（ことになっている）。なんかねー、すべてのおみやげに『ばけばけ』の帯が貼つてあるようなね」

と話し始め、宍道湖のしじみ汁が大きくておいしかったと、しじみ談義を続けたあと、冒頭の芸備線の話に移った。時間にして11・2分。あつという間だが、聞いているリスナーには残つたのではなからうか。

芸備線・東城駅・帝釈峡・カルスト台地・雄橋
情報係が発信したかということが大切だ。

ここでは六角精児。鉄道を愛し、酒を愛し、奇妙な歌を歌い、『呑み鉄本線 日本旅』というBSならではの番組で気ままに振舞う（かのように見える）、さりげなく癖のある役をこなす、懐の深い舞台役者が、思ったままに話すからこそ耳に残る。そういう意味でも『芸備線魅力創造プロジェクト』のみなさんの今回の企画は素晴らしいと思う。

II 開業100周年を目指す落合駅

ただ、ここからが大切だ。ここからが難しい。ラジオ番組でPRして訪れた人に「来てよかった。乗つてよかった」と思ってもらわんと。「これかあ」ではまずい。JRの説明を聞くまでもない。ローカル線を残すのは至難の業だ。頭の中ではたぶん誰しもわかっている。でも無くしたくない、無くしちゃあいけんとか心が訴える。じゃあ、どうすればいい？人が乗ればいい。どうすれば人が乗る？乗りたくなるようにすればいい。だから、どうやって？それが、わかれば苦労せん。

この5日に行われた落合駅の開業90周年記念イベントは大盛会だったらしい。サブタイトルに『開業100周年を目指して』とあった。さすがだ。でも、いつもイベントをするわけにもいけない。普段だ。もつと言え、遠くから来てくれる人のこともだが、地元の人に乗ることも忘れちゃいけない。

III ドライブイン ミッキーの昭和力

ただ、最近思うところがある。これってすごいよなあ。

『ふんわり』の中で六角精児が唐突に話し始めた。どんな話の流れでそうなったのか覚えていないが、突然、私の耳に聞きなれた名前が：。『ドライブイン ミッキー』。
「ドライブインミッキーというのがあらしいんですよ、自分はまだ中に入ったことはないんですが：。すごい店らしいんで、ボクも行つてみたいと思つているんです」

今日（10月12日）も1時過ぎに前を通つたが、どう見ても他の町から来たようなバイクや車がとまり、たくさんの方が店の前に屯していた。2年前『秘密のケンミンSHOW』で紹介されてからそうなった。全国放送の力は恐ろしい。

しかし、紹介される前から、お昼時はサラリーマンのお客様でいっぱいだった。私は、あえて時間をずらして行つた。必ず中華そばを頼んだ。とくにおなが空いているときは中華セット。「これはラーメンじゃあない、中華そばじゃ」。よそから来た知り合いを連れて行つて食べさせた。「ほんまじゃ」。麵をすすりスープを堪能した。

それが『ケンミンSHOW』以来、入れなくなった。ふつう2・3か月もすれば元に戻る。でもいまだにお客があふれている。なんだろう。考えた。たぶんこうじゃないか。

『ミッキー』には昭和がある。『ドライブイン』を冠した店が日本にいくつあるだろう。昭和の時代、いたるところに『ドライブイン』はあつた。今はない。みんな時代に合わせ名前を変えた。『ドライブイン』は昭和の名前だ。変えない勇気が、『ミッキー』にはあつた。

そして、味はもちろん、あのメニューの多さ。量の多さ。いい意味で雑然とした居心地の良さ。奥さんの絶妙の接客。客席から見える手際よく動く厨房の人たち。おまけに牛乳がついてくる。びっくりだ。

飲食店をやっているからわかる。並大抵でこんな店はできない。なぜなら人間力が必要だから。言い方を変えたら働き者でしかできない店だから。飲食店の原点がここにある。

そして昭和がここにある。イメージじゃない。昭和のイメージを売りにする店はいくらもある。でもそれは偽物の昭和だ。そんなものに飽きられる。そうじゃない。『ミッキー』には誰にも真似ができないあの昭和がある。

地元の人に愛され、遠くから人を呼ぶ。『ドライブインミッキー』に庄原の、芸備線のヒントがある。そう思う。



地元の人に愛され、遠くからも人を呼ぶ
ドライブインミッキー

IV 芸備線の列車に手を振ろう運動

何日前か、この手紙を読んでいたいている女性からお手紙をいただいた。思った。田舎には昭和の温もりがあると。

今回のチラシ、六角精児さんが西城に来られ、トークやコンサートをされたこと、私も新聞で知り残念でした。NHKの『呑み鉄』時々見ていて六角さんに逢いたかったですね。『芸備線の列車に手を振ろう運動』をやっている者としては残念！残念！

今日の新聞には落合駅で90周年イベントで1000人も来ていただいたそうで、すばらしいことです。昨日は午前中は地域でランドゴルフがあり、午後は休みだった私：。イベントには行かないけど、列車には手を振る私！